

架け橋期カリキュラム（素案）

架け橋期カリキュラム(素案)

共通の観点	アブローチ期～子どもがどのように育つかを見据えて～		スタート期～子どもがどのように育ってきたかを踏まえて～	
	5歳児 4月～9月	5歳児 10月～3月	1年生 4月	1年生 5月～9月 1年生 10月～3月
期待する子ども像	- 日常生活の中で、様々な方法でコミュニケーションをとり、他者と関わりあう。 - 基本的な生活習慣を身につけ、自分で考えて行動する。 - 身の回りの不規則さに気付き、予想し、工夫しながら、興味、関心をもちたもに集中して取り組む。	- 友達と楽しく活動の中で、共通の目的に向かって、工夫したり、協力したりする。 - 自分たちで生活の場を整え、一日の流れを意識し、見通しをもって意欲的に行動する。 - 小学校生活を身近に感じ、1年生になる期待を高める。	- O進級した喜びを感じ、新しい出会いを楽しむ。 - O先生やクラス友達の名前を覚えるなど先生や友達のことを知り、親しみの気持ちをもち、 - O学年での活動や他学年との関わりを通して、困った時には、相談しても大丈夫と考える。	- 先生や友達などのつながりの中で一人一人が安心感をもって過ごす。 - 先生や親しい友達に考えたことや自分の思いを伝える。 - 学校生活のしくみやルールがわかるとともに、学習に意欲や関心をもち、自ら関わろうとする。
遊びや学びのプロセス	- 体験の中で「気持ち」「分かる」 - O高付きをきっかけにしながらめいて遊びを進める。 - Oやりたいことをやり続けることで、夢中になる。 - O総合的で、複合的な関わりが深い。	学びの芽生え	自覚的な学び	
★プロセスを踏まえて配慮すること		★学びに向かう力・人間性を大切に、意欲や好奇心を育てる。 ★主体的な遊びや活動を継続していく中で、試行錯誤や工夫しながら対応し、その遊びや活動の深まりを引出す。 ★「気持ち」につながる環境設定や言葉かけが必要 ★継続性のある遊びや活動を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)で意味づけて確認する。	- O授業を通して学ぶ。 - O学んだことや気づいたこと、経験してきたことを次に生かしていく力を身につける。 - O幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「資質・能力」主体的・対話的な学びを意識しながら、45分単元の授業を行う。	- 少人数で対話したり、絵や簡単な文で表したりすることを通して気持ちを言語化する。 ★幼児期の経験や育ちを活かして、どこにスポットをあてるか、どこで学びを深めるかコーディネーターする。 ★子どもが学びを自覚できるよう、問いかけたり、気づいたことを発表するなどして学びを整理する。
園で展開される活動 /小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等	★散歩 ★ごっこあそび ★楽器遊び ★色水遊び ★異年齢交流(年下の友達との関わり) ★当番活動 ★グループ活動 ★掃除 ★栽培活動 ★砂場遊び ○公共交通機関の利用 ○園外保育 ○春夏の草花や生き物に触れる・みつける	○手振り ○秋の自然物遊び ○作品展 ○劇遊び ○正月あそび ○郵便ごっこ ○園内散歩・園内探検 ○もちつき ○大掃除 ○お別れ会 ○水作り ○秋冬の草花や生き物に触れる・みつける ○小学校見学	- O自己紹介 ○遊具の使い方を教えてもらう - O給食開始 - O学校探検 - O音みつけ	- Oあさがお栽培 - O生き物の飼育
★通年行う活動				○手振り ○秋みつけ ○たねができたよ。リースをつくる ○秋祭り ○新1年生を迎える会準備
先生の関わり	◆様々な支援や配慮を要する(特別支援教育、外国にルーツをもつなど)子どもについての事項	○自分なりの目的をもって、取り組んでいる姿を認め、自信や意欲がもてるようにする。 ○自然等との関わりの中で、子どもたちの気付きや発見を大切に、自然のおもしろさや不規則さが感じられるようにする。 ○ごっこ遊びなどでは、子ども自身が体験したことを引き出していき、また、それぞれの役割について話し合い、すすんで参加できるようにする。 ○子どもが話す時は、聞いてもらう喜び、伝える喜びが感じられるようにする。 ○一人ひとりが大切にされる中で、人に対する信頼感や個性を互いに認めあう気持ちを育む。 ○見立てる、イメージをぶくまらせる遊びを楽しむようにしたり、その思いに共感したりする。 ◆様々な支援や配慮を要する(特別支援教育、外国にルーツを持つなど)子どもについては、個々の課題等を踏まえつつ、他の子どもとつながり、安心して過ごせるようにする。	○遊びの中で、それぞれが思いを伝え、自分たちで見通しを持ちながら進めたり、解決していけるような機会を持つたり、援助を心がけたりする。 ○子どもが工夫して作ったり、描いたりする姿や表現など意欲を認め、共感していく。 ○進級への不安に寄り添いながら、一人一人の育ちや発達を認め、励まし、自信をもって就学を迎えられるようにする。 ○小学校見学をしたり、入学後の生活について話し合ったりして、入学を楽しみに待つ気持ちを育てる。 ○好きなことに集中したり、没頭できる時間を確保しつつ、集団で活動したり、話を聞く場面を取り入れている。	- O入学当初は、不安を感じがちな中で、笑顔で応えたり、声を掛けするなど、子どもとの信頼関係を築くことを心がける。 ○「ほこ」「ひろく」「つながる」を心がけ、生活や学習のあらゆる場面で、教師が子どもと子どもをつなぐ役割を担う。 ○園で経験してきたことなどを子どもが発表する機会を持つたりする中で、子ども自身が安心して活動に取り組むとともに、自覚的な学びにつながるようにする。 ○児童の集中力や理解面から、短く、具体的に話そう心かける。(1指示1動作で活動できるように意識する) ○特に初めての経験をさせる場面では、いろいろな教員が関わり、一人一人の子どもにきめ細やかに対応できるようにする。 ◆様々な支援や配慮を要する(特別支援教育、外国にルーツを持つなど)子どもについては、個々の課題等を踏まえつつ、それまでのつながりや育ちを土台とし、子ども同士の相互理解を促し、安心して過ごせるようにする。
指導上の配慮事項	○遊びや生活の中で、整える、止める、分類する、試すなどが自らできるような道具や用具を用意しておく。 ○自分のしたい遊びが十分楽しめるように用具、道具をだしておく。 ○楽しいことや好きなことに集中したり、没頭できる時間を確保する。 ○自然の中で遊ぶ機会をもつようにし、心が動いたり、自然物を使ったりいろいろな遊びが体験できるようにする。 ○遊びの中でやりたいいろいろな素材を用意したり、見本をいれたりして意欲をもって作れるようにする。(観察別に分けたり並べたりして、使いやすさ、片付けやすさなど準備しておく。) ○興味や関心に合わせ、見る絵本、読む絵本、調べる本などを用意し、子どもが選んだり、手に取りやすいようにする。 ○日常生活で使用するマークや写真には文字や数字を併記し、その関係性を気づいたり、文字や数字に興味・関心を持てるようにする。 ◆一人ひとりの子どもにとって、わかりやすく、見通しをもって生活が送れるように、視覚教材等の環境を整える。	○活動を振り返りつつ、互いの思いや気持ち、考えを知り、共有や共感ができる場や時間をもつ。 ○時計、カレンダー等を活用し、一日の生活の流れを意識して活動できるようにする。 ○協同的な活動を通して共通の目的の実現に向けて試行錯誤や工夫、様々な気づきが生まれ、劇遊びなど友達とイメージを共有し、見通しをもて取り組むことを通して、やり進めたり喜びや達成感味わえるようにする。 ○文字や数値等への興味に合わせ、ことは遊び(しりとりや言葉ゲームなど)や郵便ごっこなどが楽しめるように五十音表や文字スタンプ、鉛筆等を用意しておく。 ○自然現象や自然の変化に気付けるような機会をもち、準備し、不規則性を感じたり、試したり調べたりする経験ができるよう用具を準備する。 ○園生活開始後の時期に充実感をもって、修了記念品づくりなど修了式までの準備などは、各自が思いを込めて取り組めるように計画する。 ○小学校を見学したり小学校の先生の話を聞いたりして、小学校入学への期待感と自覚を高める。	○学年やグループなどの活動を取り入れることで、親しい友達とのかわりや輪に子ども同士の人間関係が広がるようにする。 ○顧問や先生など少人数で話し合ったり発表したりする機会をもつ。 ○幼児期の遊びや活動を取り入れ、担任や友達と楽しみながら関わる活動を設定する。(簡単な手遊びや友達作りにつながるゲームを取り入れる) ○環境の違いや個人差が大きいことを踏まえ、一人一人の姿をよく見つめながら、子どもたちができていることや経験していることを生かした授業を行う。 ○モジュール学習(45分の授業時間にとらわれず、柔軟に学習時間を設定する学習方法)を取り入れ、子どもの実態に応じて徐々に45分の授業に慣れるようにする。 ○生活科を核とした総合的な指導を取り入れることで、子どもの思いや願いの実現に向けた活動をゆとりとした時間の中で進める。 ◆どの子どもも安心して新しい環境に慣れようとして、就学前施設での環境とできるだけ同じように絵や写真等を使うなど、視覚教材等の環境を整える。	○子どもや学級の実態や発達を踏まえ、時間割や学習活動を工夫し、編成する。 ○情報源を精選し、安心して集中して学ぶことができるよう環境を整える。(二バーサルデザインに配慮した環境、写真・絵・電子掲示板などの視覚情報を適宜活用する) ○子どもたちの姿にあわせて、徐々に時計やチャイムを活用した生活を組み立てていく。 ○1日の生活や学習予定について自分で確認できるように掲示物を用意する。 ◆就学前施設での環境を踏まえつつ、どの子どもにとっても、自ら理解し、見通しをもって生活が送れるように、視覚教材等の環境を整える。
家庭や地域との連携	○充実した園生活を過ごすことが、小学校の生活や学習に繋がることを保護者に伝える。 ○友だち関係の広がりや深まりから見られる子どもの様子等をクラスだより等で伝える。 ○遊びをとおした子どもの育ちを記録し、遊びや生活の中の「学びの芽生え」について知らせる。 ○個人面談等で、一人一人の育ちについて共通理解を図る。	○個人面談等で、就学に向けて一人一人の育ちを確かめ、保護者の相談には丁寧に応じ、どのように引き継ぎを行うか確認するとともに、小学校入学までの生活の見直しを伝える。 ○クラス面談等では、先輩保護者に話を聞けるような場を指図する。 ◆特別な支援が必要な子どもについては、保護者の思いを受け止めながら引き継ぎを丁寧に扱い、安心して就学につなげられるようにする。	○入学式や懇談会の他、連絡帳や学級だよりなどで学校生活や子どもの様子を伝え、保護者の安心感につながるようにする。 ◆特別な支援が必要な子どもについては、通っていた園と連携を図り、スムーズに学校生活がスタートできるようにする。	○保護者がいつでも相談できる体制を整えていく。また、保護者、児童の不安を取り除けるように、共感的、肯定的態度で寄り添う。 ◆家庭訪問や個人面談を通して、子どもの得意感について家庭と共有し、必要に応じて関係機関と連携を図ったりしながら、共に成長を見つめていくようにする。
◆様々な支援や配慮を要する(特別支援教育、外国にルーツをもつなど)子どもについての事項				
地域での取り組み	○まんだら火祭り ○お宝人権まつり ○二中体育祭参加 ○たいまつ ○お話会など	○いこいの家との交流		○らいとびあ探検
子どもの交流	○れんげ畑交流 ○ドッジボール大会	○秋祭り ○新1年生を迎える会	○れんげ畑	○ドッジボール大会
教職員の交流	○交流打ち合わせ ○反省会	○引き継ぎ	○保幼小打ち合わせ ○入学後引き継ぎ会	○参観